

# 昭和こじょう会便り



## 令和2年度を振り返って

昭和鯨城会会長 小川 賢雄(31期陶芸)

昭和こじょう会便りも今年度最後の102号を発行する事が出来ました。しかしながら今年度はコロナ禍に始まり、いまだ終息しない状況で終わろうとしています。

新年度の4月早々から「緊急事態宣言」が発令されて「昭和鯨城会総会」が実施出来ず、止む無く「投票議決」方式に変更しました。会員全員の投票で各議案の賛否を問い、反対票無しで可決しました。また当会としては4月～6月の行事等の活動を全て中止しました（他所関連のものは一部実施）。

名古屋市や鯨城学園との共催行事が次々と中止となる中で、当会は7月に再開しましたが、10月に予定していた「趣味の作品展」の実施可否については悩むところでした。この作品展は広く会員の皆さんが参加できる場であり、実施したいとの意見も多くコロナ対策実施のうえ、開催に踏み切りました。今年度は昭和区役所の都合で会場が取れず、経費も安価な「名古屋市市政資料館」の一般展示場開催でした。多少遠いと言うハンディもありましたが、54点の出展を頂き、来場者も177名と好評価で実施でき、会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

令和3年度もコロナ禍の予測が出来ません。鯨城学園も34期生が卒業できず、35期生は入学も無しで、昭和鯨城会への新規会員が無いことから、現行の各種役員は全員留任する事で、「投票議決」により4月にご承認頂きたいので宜しくお願い致します。

# 行事レポート

## サムライクルーズ堀川下り

～海拔0mからの眺め～

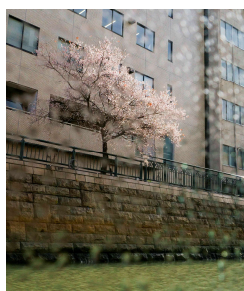
29期（生活B） 広路 阪本 勝

令和2年12月17日(木)、昭和鯉城会有志12名は、浅間町に集まり、近くの朝日橋から「頼朝丸」に乗り込んで、名古屋港まで2時間の堀川クルージングを楽しみました。

出港後、しばらくは無粋な光景が続きましたが、橋を潜るたびにここはどこ？ 普段道路から見る光景との違いに驚愕！



我々のクルーズ船



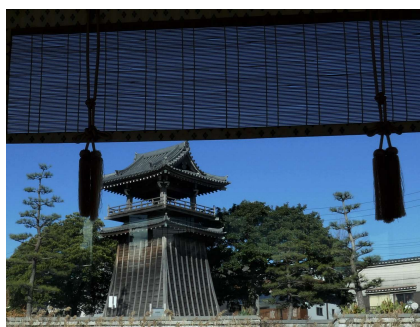
四季桜



松重閘門



本物のクルーズ船



七里の渡し



シートレインランド

納屋橋あたりからは護岸が整備されて、時折満開の四季桜が咲いており、船内が和みました。



ポートビルと飛鳥II

更に高蔵の辺りからは川幅が広がって景觀が良くなり、松重閘門・七里の渡し等川沿いの名所や、陸からでは見られない造船所が見られ、熱田球場、白鳥公園、シートレインランドの観覧車等、海拔0mから眺める光景は新鮮でした。

名古屋港では、寄港中の飛鳥IIを船首側から見上げることが出来、ラッキー！

換気対策で川風が船内を流れ、身体が冷えるのを熱燗やお湯割りで温めながらのクルージングは最高でした。

企画して下さった行事委員会の皆様、ありがとうございました。



ガーデンふ頭下船場所にて

# 「ぶらり昭和区MAP」製作委員会

31期（陶芸） 松榮 小川 賢雄

名古屋市昭和区では「THE SHOWA：歩いてみませんか昭和区」のタイトルで「VOL.1 塩付街道・飯田街道」を対象に、1992年2月に発刊されています。折り畳み地図に街道付近の名所・旧跡・著名物件等が簡潔に紹介し記載されています。その後、「VOL.10 お勧めスポット」2004年10月まで発行されていましたが、10年前後が経過して地区の状況も変わって来ていることから見直しを行う事になり、今回の⑤八事・興正寺で全ブロック完了と成りました。

見直しに際してはタイトルを「ぶらり昭和区MAP」とし昭和区11学区を5ブロックに分けています。

- ㊦松榮・御器所 2017年3月発刊
- ㊧広路・川原・吹上 2018年3月発刊
- ㊨鶴舞・村雲・白金 2019年3月発刊
- ㊩滝川・伊勝 2020年3月発刊
- ㊪八事・興正寺 2021年3月発刊  
(興正寺は滝川学区だが紹介物件が多いため八事ブロック)



製作委員会のメンバーは桜花学園高等学校インターアクトクラブ、昭和区案内人クラブ、昭和鯉城会、八事・杵中歴史研究会の四団体で構成されています。

マップの製作は概略次の行程で実施されています。

- ①マップ調査対象の選出⇒ ②対象個所の現地調査・取材⇒ ③調査結果による掲載可否検討⇒ ④紙面割り付けレイアウトと散策ルート図⇒ ⑤対象記事の最終確認⇒ ⑥印刷配布

紙面には名所・旧跡等以外にその地にまつわる「昔話」と代表地点を巡る散策ルート図が表示されています。㊪八事・興正寺は印刷後昭和鯉城会会員の皆さんに配布予定です。



昭和鯉城会の「ぶらり昭和区MAP」製作委員会メンバー

- 左から
- ・阪本勝 (29期生活B)
- ・小川賢雄 (31期陶芸)
- ・平石茂 (29期健康A)
- ・眞野晃 (30期国際A)
- ・早瀬芳二 (33期陶芸)

# 叙勲報告

## 瑞宝双光章受章

令和2年11月3日、昭和鯨城会員31期陶芸専攻で社会福祉法人名古屋ライトハウス理事長の近藤正臣さんが、令和2年秋の叙勲にて瑞宝双光章を受章しました。残念ながら新型コロナウイルス感染症のため、拝謁・国の伝達式は中止となりましたが、11月5日には愛知県知事から伝達を受け、後日宮殿見学・記念写真撮影の予定となっています。

受章理由は、「社会福祉功労」ですが、具体的には名古屋ライトハウスが運営する重度の就労支援施設の創設と育成に努め、また諸障害者団体に活動して障害者の自立促進に寄与したことによるものです。

経歴は、昭和52年名古屋ライトハウスに入職し、昭和54年には重度身体障害者授産施設（障害者が働く施設）の開設と施設長就任、平成29年には理事長となって現在に至っています。

平成7年には愛知県セルプセンター（愛知県下の就労支援施設で作られた製品の販売、官公需等の受注組織）会長、平成21年には全国社会就労センター協議会（就労支援施設の全国組織）会長に就任するなど、公職としても社会就労の重責を担ってきました。

78歳の現在も現役で活動しておられ、信条は「福祉は人相手の仕事ゆえ、人を好きになれ、そしてクライアント（福祉を受ける人）との信頼を築け、陰ひなたに関わらず汗を流せ」であり、今後も可能な限り一層、高齢者・障害者の幸せのために尽くしたいとのこと。

一方、鯨城学園関係では、専攻の陶芸は忙しくて卒業以来やってないですが、直径40cmほどのメダカ鉢など、作品は家を飾っているとのこと。また、クラブの書道ではOB会（十人会）をつくり、引き続き活動したり（現在、新型コロナウイルスのため中断）、八事福祉会館の書道添削講座を受講中とのこと。機会があれば、昭和鯨城の作品展に出展していただきたいと思います。

（文責；広報委員長）



# 会員の広場

## 感染症コロナ流行時の入院騒動記

20期（陶芸） 広路（故）富田 紘八郎

新型コロナ感染症が毎日報道されている令和2年11月13日、我が家の騒動が発生した。

前日の夕食後に、異常な高熱と震えが襲ってきて、夜には38.9度の高熱があり、インフルエンザ用の解熱剤を飲み、一時しのぎの対処をした。この結果、翌日までに体温は一旦37度程度まで下がっていたが、震えや吐き気は収まらず、2度ほど嘔吐したため、連れ合いが救急車の出動を要請した。



市大病院へ緊急搬送され、新型コロナ感染のPCR検査を2回受けたが「陰性」であったため、他の病因を調べる検査となった。私は、7年ほど前に敗血症を発症して、愛知医科大学で治療した事があったため、血液検査を行った結果、「敗血症のショック症状」と仮診断され、応急措置を行ったのち、治療歴のある愛知医科大学病院に、「担当医師同乗」で救急車により緊急移送され、ICU病床に転院した。

更にPCR検査を2度受け、コロナ感染は「陰性」と確定された。その後血液検査・血液培養検査などを経て、診断は「敗血症のショック症」と病名が確定した。

入院後、毎日4回の抗生剤の点滴が10日間続けられた。初めの5日ほどは微熱があり、その間も毎日血液検査は続けられた。

ICU病棟は、個室で陰圧になっており、通路に向けた窓が一つあるが、外部の景色は少しも見えず、入口は自動扉がついた1か所のみで、医療関係者以外は出入り禁止であった。この集中治療室で2日間過ごし、一般病棟に変わることが出来た。一般病棟は、長さ約100メートル、横50メートル程あり、中央部にエレベーター（一般用4基、医療専用4基）が設置されていた。このエレベーターホールでA・B2つの病棟に分かれており、病棟間の移動は禁止であった。



家族が患者さんの必要な品を持参すると、一階の事務室で「必需品持ち込み申し込み」を行い、入院階のナースセンターと連絡、了解を得て入院階のエレベーターホールに入ることができる。このホールからナースセンターに連絡してから品物を看護師さんに渡し、その後看護師さんが病室に届ける。

患者が他の階への移動や他科の一般診療を受けるときは、主治医の承諾が必要で看護師または看護助手が同行する。個人の自由移動ができるのは同一病棟のみで、自主リハビリ等はこの狭い空間で歩き回るか、ストレッチを行うのみであった。2階のコンビニへの買い物も主治医の移動許可が出ていないとできなかった。

新型コロナ感染対策のため、病院は極度に徹底した感染防止体制をとっており、「檻のない監獄」のような状態であった。おかげで、私は新型コロナ感染症に感染することなく、治療していただけて、11月28日に無事退院できた。このような医療関係者の厳しい防護体制等を見てきた一方、市民生活での一般市民の防疫意識の低さが気がかりである。

Go To トラベルや Go To イート等の経済政策により、安価になったと言って「喜び、浮かれ、酔いしれて」おり、これで良いのでしょうか？

## 会員の広場

### 博物館を楽しむ NO6 北海道のユニーク博物館

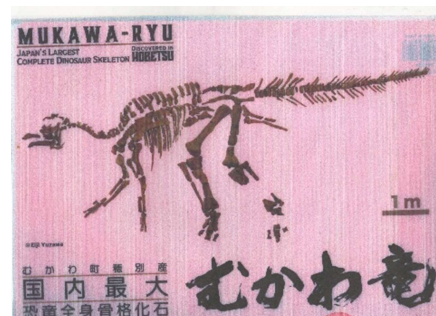
31期（地域A） 松榮 細野 博行

令和2年7月に北海道を旅行して、ユニークな博物館を訪れたので紹介したい。

- 『国立アイヌ民族博物館』国立博物館が北海道に令和2年7月に開館した。白老町にアイヌ民族との共生をテーマとした象徴空間「ウポポイ」といわれる国立施設内にできた。屋外ステージではアイヌのうた・おどりなど伝統芸能がプログラムにそって披露される。工房があり木彫・織物の実演の見学、丸木船・仕掛け弓の体験などができる。開館した『国立アイヌ民族博物館』は紺色の大屋根に覆われスッキリしたデザインだ。シアター上映やアイヌ民族のくらしの道具、歴史の展示やアイヌ語由来地名、アイヌの偉人伝などの展示がある。しかし文化財はないので展示品を観る楽しみは少ない。ポロト湖畔にあったアイヌコタンの跡地に造られ、広大な敷地・立派な建物・多くのスタッフ（入場者の数倍いるか?）・多様な催事・多様なパンフレットと、さすが国立施設で資金が豊富なのだろう。博物館というより、テーマパークみたいだった。



- 『穂別博物館』新千歳空港から東へバスに1時間20分乗ると、白亜紀（約9900～7000万年前）の化石の宝庫のむかわ町穂別町に着く。ここはアンモナイト、二枚貝、ウミガメの化石が大量に発掘され、全長数メートルの首長竜化石も発掘されたことで『穂別博物館』が作られた。さらに8年ほど前に新種の恐竜の尾椎が発見され、北海道大学小林快次教授の指導を受けて大規模な発掘を数年かけて行った。クリーニングの結果、ついに全身の骨格化石が見つかり日本初のことであり「むかわ竜」と名付けた。昨年には東京国立博物館において骨格どおりに化石を組み立てて展示もした。むかわ竜は全長8メートルもあり、学術調査によりハイドロサウルス科の新種で年齢は12才以上、体重は4～5トンと推定された。あらたに「カムイサウルス」と命名された。展示の現状は建物が狭隘なため天井近くの壁に骨格標本を張付けて展示している。窮屈そうな展示であり広い展示施設の建設が待たれる。



- 『サケのふるさと千歳水族館』千歳市の千歳川に沿った道の駅サーモンパーク隣に『サケのふるさと千歳水族館』がある。川の中にインディアン水車が回っており、秋になると川を遡上するサケを捕獲する装置だ。年間25万匹も捕獲している。水族館の巨大水槽は高さ5m×幅12mもあり、淡水では最大級水槽だ。サケ科の多種類の仲間、チョウザメ、幻の魚イトウなどが泳ぐ。支笏湖水槽では神秘的湖底を再現している。チョウザメに触れる体験ゾーンのタッチプールや、水鳥かいつぶりが潜って魚を採る水槽もあり面白い展示だ。目玉に千歳川の水を直接覗く水中観察窓が10箇所ほどあり、清流がそのまま水族館となっている。サケ稚魚の成育、ウグイの産卵、サケ遡上風景が自然のままに見られる。秋にサケの遡上を水中で見られたら迫力があり見応えがあるだろう。



# 会員の広場

## 鶴舞公園のブルーモーメント

32期（健康B） 吹上 伏屋 満

鶴舞公園は明治42年に名古屋で最初に設けられた公園で、現在も都心では市内屈指の規模を誇り、水辺などの自然も残しており、サクラ・バラなどの花や樹木、本物のツルはいないが、サギ・カモなど種々の鳥が居て、日中でも勿論、色々な景観や四季折々の自然を楽しむことができます。

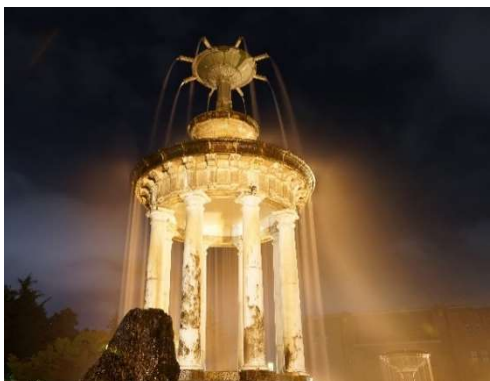


さて、ブルーモーメントという言葉をご存じでしょうか？夜明け前と夕焼けの後のわずかな隙に訪れる、辺り一面が青い光に照らされてみえる現象だそうです。身近な鶴舞

公園も、その瞬間、日中とは別の景色が見られます。

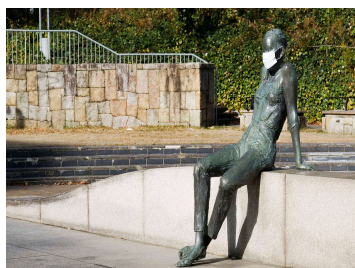
私は、朝は苦手なので、もっぱら夕方の黄昏時を越すころ訪れます。朝のラジオ体操とは違って、人は少なく、落ち着いた雰囲気醸し出されています。

皆さんも昭和区にある由緒正しい公園を、日頃と違う状況で訪れてみるのはいかがでしょうか？



## コロナ禍の街風景

こういう街の景色はいつかなくなり、  
記録として「そんなことがあったんだ」  
という具合になることを願います。



← R3/1月  
栄公園

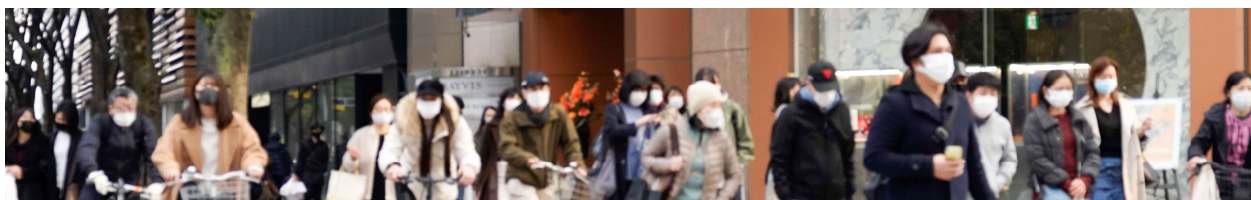
R3/2月  
緊急事態宣言下  
の栄街並み



R2/8月の緊急事態宣言下



R2/9月の厳重警戒下



## 訃 報

- ・ 杉田 順子 様 (31期 文化B 川原学区 郷土史クラブ)  
令和2年11月22日ご逝去されました。
- ・ 富田 紘八郎 様 (20期 陶芸 広路学区 写真クラブ)  
令和3年1月13日ご逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 編 集 後 記

新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で行事等の活動に支障が生じておりましたが、会員各位のご協力により、今号を予定どおり発行できました。特に、富田 紘八郎様には貴重な闘病生活の様子をお寄せいただいたのが、その後突然のご不幸により絶筆となってしまい、大変残念なことでした。

コロナ禍関連の記事もありますが、めでたい顕彰の記事もありました。今後色々な対策が進められて病勢が収まり、次年度がより楽しい記事で満たされることを願いながら、今後の活動を継続してまいります。

昭和鯨城会 「昭和こじょう会便り」 2021年3月102号

発行責任者 小川 賢雄

広報委員長 伏屋 満、 副委員長 樋口 敏幸

広報委員 杉江 恵理子、細野 博行、安藤 守、中村 誠司、早瀬 芳二

表紙写真 「堅香子(カタクリ)の花」 藤田 保志(26期 福祉)

名古屋市高年大学鯨城学園・昭和鯨城会共同発行